

◆ 第4分科会【危機管理】学校安全 ◆



自らの命を守る安全教育の推進と校長の在り方

～自ら判断し行動できる子どもの育成～

五十嵐 登（新庄市立升形小学校）

1 はじめに

全国各地で子どもが被害者となる災害や不審者犯罪、重大交通事故などの事案が絶えない昨今、子どもたちには、自分の命を自ら守ろうとする力を養うことが求められている。そこで、本研究では、これまで最上地区の各学校が行ってきた学校安全の取組について「自ら判断し行動できる子どもを育てる」という視点で再点検し、校長として果たすべき役割や指導性についてまとめることにした。

2 研究の概要

(1) 研究計画（3年計画）

1年次：安全教育の取組状況調査と課題把握、研究テーマ及び研究内容を設定。

2年次：課題解決に向けた実践と実践事例の集約、整理。

3年次：研究のまとめ（成果と課題）

(2) 校長が捉えている課題

- ① 教科等横断的な視点で、系統的・体系的な安全指導に結びついていない。
- ② 職員研修の時間や講師の確保が難しい。
- ③ 児童の「危機予測・回避能力」がまだ低い。
- ④ 児童主体の安全活動が不十分である。

3 研究の内容

(1) カリキュラム・マネジメントにより安全教育を推進した実践

- ① 経営の重点への位置づけと学年の安全教育計画の作成
- ② 教科、領域等との関連を生かした安全教育
 - ・5学年理科と防災学習 ・学級活動と避難訓練
 - ・総合的な学習の時間と特別の教科道徳と学級活動

(2) 地域連携・職員研修により安全教育を推進した実践

- ① 関係機関と連携した職員研修
 - ・自治体との連携による「防災ブック」作成
 - ・実効性の高い危機管理マニュアルへの改訂

(3) 子ども主体の活動を通して自らの命を守る安全教育の実践

- ① 子どもとともに行う安全点検とその活用
- ② 登校班長会、町内子ども会を活用した安全確認

(4) 校長の役割と指導性

- ① 経営の重点に安全教育を明確に位置付け、職員のベクトルをそろえること。
- ② 活動に必要な人的支援を行うこと。
- ③ 授業参観及び授業記録により職員の安全教育への意欲を高め、他職員と情報共有すること。
- ④ 関係機関との連携を図り、具体的な活動に取り組むことで職員研修に結びつけること。

4 成果（○）と課題（●）

○校長が学校経営の中に、安全教育・いのちの教育の目標を明確に位置づけ、学校カリキュラム・マネジメント表、学年の安全教育計画表を活用することによって、年間を見通した安全教育を実施することができた。

○洪水による浸水や河川の氾濫等の災害の経験から、自治体や教育委員会との連絡系統、緊急時における施設の運用、職員の動き等、校長と学校の役割を明確にすることができた。

●関係機関や地域との連携を重視し、地域の実態に応じた安全教育を教育課程に位置づけて指導していく必要がある。

●子どもたちが主体的に活動するための課題を整理し、校長としての役割を明確にして、実践に結びつくよう計画していく必要がある。

5 提言

(1) 自ら判断し行動できる子どもを育成するために、校長として安全教育をマネジメントしていく必要がある。

(2) 行政や関係機関と連携した中で、地域の実態に応じた安全教育を推進し、子どもの危機対応能力を高めていく必要がある。